

復興構想会議：復興理念コミュニケーションツール提案

“創造的復興とは？”

2011年6月14日

検討部会委員：竹村真一

#これは復興構想会議の基本理念である「創造的復興」の考え方について、おもに検討部会での議論を踏まえて、広く発信する補助ツールとして提案するものです。

#復興理念ポケットブック的なものを想定しており、たとえば世界的な不況の中で苦しんでいた80年代のシンガポールで、首相のリー・クアン・ユーが自ら国民に語りかけた“*What is Recession?---How to cope with it?*”（国民全員に配布）のようなものをイメージしています。

#被災地の現状は「創造的復興」など考える余裕がないほど切迫し、最低限の生活の復旧も遅延している状況ですが、本会議での生産的な議論を国民と共有し、対症的療法的な支援に終わらない東北と日本の骨太の復興ビジョンを提示することが、復興構想会議の本来的責務であると考え、このようなコミュニケーションツールを試案として提言する次第です。

#冊子はウェブやケータイサイト、「復興前線マップ」（仮）などと連動します。

“創造的復興”
とは？

東北の「魅力」
新たな価値創造

最も大切なことは、
「魅力ある東北」「希望の東北」の創造。

街並みだけ復興しても、
人が出て行ってしまっては、東北の復興はない。

若者を引きつける、「未来」を感じられるような
“新しい東北”の思い切ったデザインが必要だ。

何より、東北に住みたい、帰りたい、
ここで働きたい、と思えるようにする復興。

そのためには、

- 1) 生業の復興支援、地場企業再生はもちろん
- 2) 新たな産業・文化集積、実験的な街づくり
- 3) 新「東北」ブランド、「福島」ブランドの創出
が必要ではないか？

“創造的復興” とは？

旧結合の喪失
新結合の創造

思い切って大胆に
新しいつながり、ネットワーク、
地域社会再編を模索する時。
復興とは新たな関係のデザイン。

東日本大震災で、多くの旧結合が失われた。
(コミュニティの絆、ライフライン、道路・鉄道網、
全国・全世界的な「系列」サプライチェーン…)

だが、それは新たな結合をゼロから創りだす、
創造的な自己再編のチャンスでもある。

ex. 系列サプライチェーンが途切れたために、
逆に地場の中小企業間で異業種連携？
全国から東北・福島企業と組む動きも！

ex. 漁業の「協業化」、農地・漁港の「集約化」？
それと相まって1次産業の高付加価値化
(「集約化」は地元の立場から慎重を期す)

ex. ライフライン(電気・水道)の脆弱さが露呈
→自律分散型電源の開発、発送電分離？

ex. 土地利用の流動化、「所有」と「使用」の分離

ex. 「海」－「里」－「山」のつながり(流域連環)
“森は海の恋人”は未来を先取りした思想

“創造的復興” とは？

まちの復興より 「人」の復興

地元の人間の“やる気”と
“創造性”を最大限に
引き出すような制度設計を！

東北の最大の資源は「人」だ。

人に内属した「属人的」な技能・経験こそ、
東北が世界に誇れるもの（競争力の源泉）で
あり、復興にむけた最大の資源である。

- ・資源立地より「人材立地」の工業集積
→この人材の雇用を確保さえすれば、
未来にむけた競争力は担保できる
- ・高付加価値生産の農林水産業も熟練者の
技能に依存→この廃業は国家的損失！
- ・顔の見える「個」が先導する新しい東北？
～若者を引きつける魅力ある東北の条件

“森は海の恋人”畠山氏、造船技術をベースに独創的
な建築を全国で発表する高橋氏（ともに気仙沼）、
「までい」文化を発信する飯館村・菅野村長など、新
しい東北の可能性を感じさせるクリエイティブな人材
も多く、復興を牽引するシンボルとなりうる。

“創造的復興” とは？

コミュニティの 創造的維持

新結合の創造的デザイン
によって初めて、コミュニティ
の旧結合の再建が可能に？

「人の復興」に不可欠なのが、コミュニティの
維持・復興～だが、それが極めて困難な状況。
・家族、親族の死別・別居・離散（仮設、疎開）
・被災状況の差異などによる内的「亀裂」etc.
→コミュニティの維持には創造的媒介が必要

仮設住宅に「コミュニティ機能」を
（コミュニティ・レストラン、コミュニティ農園等）

寄り添い型の支援、脱「分別型」福祉
男女共同参画、災害弱者への配慮

離散コミュニティメンバー間の通信支援

移転、土地交換、農地集約などにおいて
新たな創造的スキームを用意する必要

孤児対策（の見える化、国民的共有回路）

“創造的復興” とは？

21世紀型の 新しいまちづくり

真の「安全・安心」は高台移転
だけでは担保できない。
ハード(建物、都市計画)より
ソフトウェア・ヒューマンウェア
中心で未来のまちを構想！

元のまちを再建したい、という地元の思い。
でも、本当にそれだけでよいのか？

代替地、高台移転・・同時に考えるべきは、

人口減少、高齢化・・クルマもそうそう
使えなくなる。(50年前とは前提が違う！)

今後、石油・食糧高騰、気候変動・・
あらゆる変動や災害に強い街とは？

ここは一つ、みんなで知恵を働かせる時だ。
まちの復興には、未来への想像力と創造力が必要

- 1) コンパクト ～まちは「縮み志向」で
- 2) 自立分散と多元的なネットワーク
～何かがやられても、どこかは生きてる
- 3) C2C, 高床蓄電(CAES)など新思想を導入
- 4) 「脱ハード志向」のコミュニティ・セキュリティ
～国や護岸が守ってくれるのでなく、
自助・共助の「人間力」がいのちの担保。

“創造的復興” とは？

創造的 エネルギー政策

「原発ありき」「安定供給」の前提が崩れた今こそ、社会デザインに創造性が要求される。

地産地消の自然エネルギーを考えることは、地域の再発見、地域教育の「窓」でもある。
(うちは風力？地熱？休耕田ソーラー？)

「節電」もクリエイティブな「創電」行為！
(“ネガワット節電所”を増やす、エネルギーの「神経系」＝スマートグリッドで需給調整)

エネルギー安全保障は「国家安全保障」。
電力不安→内外企業が海外移転(空洞化)
→エネルギーこそ東北と日本の復興の「鍵」

何より東北を日本のEシフトのフロンティアに

“創造的復興” とは？

“未来”の震災に備える

「予防」減災 リスクの見える化

もともと日本は洪水時の河川水位よりも低い沿岸低地に人口の50%、資産の75%が集中する国。
津波であらわになった沿岸低地のリスクは、東京の東半分、大阪平野など、全国的な課題でもある。

3. 11東日本大震災からの復興課題には、これから近未来に起こりうる震災・津波災害に対する「防災・減災」の国づくりも含まれる。

地震・津波の頻発する「変動帯」国家として、災害が起こってから復興を考えるのではなく、未然に被害を最小化する創造(想像)力を！

3. 11を契機に「壊されてから直す」パターンから脱却し、(あるいは「絶対壊れない」という安全神話を過信するのでもなく、)

未然形の災害に備えた国づくり、国民的な災害(減災)リテラシーの育成に力を注ごう。

- # 予防減災志向の法制度改革(国交省)
- # 減災ITシステム整備、「被災訓練」？
- # 津波の経験資源の創造的継承・活用

“創造的復興”
とは？



創造的
「財政」計画？

社会の血液循環の
クリエイティブ・デザイン

東北の復興なくして、日本の復興はない。
東北復興への投資は日本の「未来への投資」。

生業再建支援(二重債務を回避しつつ)
地元主導の「まちづくり会社」に一括交付

また同時に、日本全体の活力の維持なくして、東北復興は不可能である。その意味で、復興投資のあり方は広い射程で考える必要がある。

電力不足→空洞化(企業の海外流出)を
抑止するための税制優遇、補助金・・
より抜本的な、電力供給体制への投資

(注)財源論(復興債、消費税？・・)の提示は本義ではないが、少なくともこの復興過程が東北と日本の「未来への投資」という点は強調。

原発問題が長期化することが明らかになった
今、対症療法的な放射線対策や原発の
是非論に終始する段階を超えて、問題を
正面から引き受ける時ではないか？

“創造的復興”
とは？

原発問題の
創造的内部化

短期・中期・長期にわたる放射能・原発
事故との創造的共生ビジョン、シナリオ
(母子避難、疎開農業など支援体制必要)

受け身の放射線情報でなく、創造的か
つボトムアップ、参加型の市民的モニタリ
ング体制の構築、世界への発信(応答)

「原子力」や「放射能」に関する国民的な
リテラシー(小学校段階からのビルトイン)
～たとえば太陽＝核融合、地熱＝崩壊熱、
初期の地球の放射線環境など、原子力や
放射能を学ぶことは、この宇宙と地球・生
命をより深い次元で理解する窓となる。

震災と津波は決して「未曾有」ではなかったが、
一国の災害に対し、世界から寄せられた共感
としては未曾有の規模 →それへの応答責任

“創造的復興” とは？

世界への応答
responsibility

世界に背を向けた
内向きの復興
ではいけない

そのためには

- 1) 地震・津波など、「予防減災」立国ビジョン
～さらにM9の地震にも耐えうる「免震性」の
高い国家として日本の信頼性回復を！
- 2) 原発と放射能の問題へのresponsibility
- 3) 近未来の電力不足やエネルギー政策
を明確に打ち出すこと。

国際ビジネス拠点として日本がその地位を維持するには、未来への不安解消が不可欠。
だが逆にいえば、国際社会で存在感が低下していた日本が、強いプレゼンスとメッセージ性をもってリーダーシップをとれるチャンス。

世界への応答、創造的外交が復興の要！